

2階資料室

猩猩



天狗

秋季大祭には欠かせない“猩猩”と“天狗”。子供達を追いかけ、大きな赤い手で頭を撫でようとする。撫でられた子は夏病にかからないと・・・。



2階から山車を間近に見下ろす。明治時代の祭り風景の写真展示。



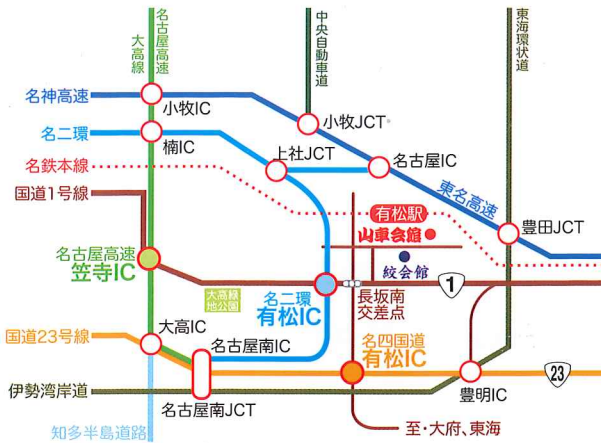
八代目玉屋庄兵衛作のからくり珠姫人形。



御祭禮用弁当箱や御祭禮勘定帳などの記録。(明治五年九月十四日記)



初代大将人形(明治六年)西町神功皇后車「関羽」



- 名二環有松インター東へ約1分
- 名四有松インター北へ約10分
- 名古屋高速笠寺インター東へ約20分
- 名鉄本線有松駅下車徒歩約3分

栄(22番のりば)高速1森の里団地行 有松小学校
バスターミナル (約50分)

P 専用駐車場はございますので、有松鳴海絞会館の駐車場をご利用下さい。



有松山車会館

Arimatsu Festival Float Museum

入館料 大人 200円 高校生 100円 小・中学生 無料
有松鳴海絞会館共通券 450円
開館 土曜・日曜・祝日 AM10:00~PM4:00
〒458-0924 名古屋市緑区有松 2338
TEL 052-621-3000

有松山車会館



Arimatsu Festival Float Museum

有 松には、「布袋車(東町)」、「唐子車(中町)」、「神功皇后車(西町)」の3輛の山車があります。

これらは、有松の氏神、有松天満社の秋季大祭(10月第1日曜日)に曳きだされます。昔の町並みを残す東海道を曳行される姿は、誠に勇壯で風情があります。道中の随所であらくり人形の演技が披露されます。3輛の山車は、昭和48年名古屋市の有形民俗文化財の指定を受けています。有松山車会館で1輛を毎年交代に展示をし、土、日、祝日に公開をしております。



じんぐうこうごうしゃ
神功皇后車
Jingu-kogo-sha float

明治6年(1873年)西町の注文により、名古屋久屋町の大工、久七によって製作された山車です。

この山車のからくり人形は、神功皇后と武内宿禰、それに神官の三体が乗っています。

人形の演技が始まると神功皇后は立ち上がり、武内宿禰と一舞した後、鮎を釣れば神の教え靈験があることを悟らせしめるという事を表現しています。山車の曳行の時には、神官は御幣を左右にふり目と口を開けたり、閉じたり、さらに口から舌を出したりします。

大幕は、猩猩緋(ショウジョウヒ)の無地。水引は南画家渡辺小華(渡辺華山の次男)が描いた下絵をもとに白羅紗地に、芙蓉、水仙、牡丹、杜若の四季の花が色鮮やかに刺繍されています。



からこしゃ
唐子車
Karako-sha float

乗せている三体のからくり人形が全て唐子であることから「唐子車」と呼ばれています。

天保年間(1830~1843年)に知多内海の豪商(廻船問屋)が20年余りの歳月をかけて製作したものであると伝えられ、明治8年(1875年)中町に譲られた山車です。唐木づくりで青貝をちりばめた輪掛けや珊瑚の房などがつき、細工に工夫を凝らした造りとなっております。高欄下の三方を飾る水引幕には、白羅紗に金糸で左右それぞれ二匹、後ろに一匹の鯉が波間に跳ねている図が施されています。からくり人形は、前人形、文字書き人形、唐子人形の三体です。後ろには、2本の長い毛槍を立てています。



ほていしゃ
布袋車
Hotei-sha float

4本柱内の奥に鎮座する大将人形が、七福神の一人、布袋であることから「布袋車」と呼ばれています。

明治24年(1891年)名古屋の玉屋町(現在の中区錦二丁目あたり)から東町に譲られた山車です。

延宝3年(1675年)若宮祭に参加している記録があり、名古屋にある最も古い山車です。

この山車には、布袋人形・文字書き唐子人形と蓮台を回す唐子、磨振(サイラリ)童子の四体のからくり人形が乗っております。大幕4枚(鳳凰・亀・龍・麒麟)の下絵は、山本梅逸で、猩猩緋(ショウジョウヒ)に金糸で刺繍されています。